

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成30年5月17日(2018.5.17)

【公表番号】特表2017-527347(P2017-527347A)

【公表日】平成29年9月21日(2017.9.21)

【年通号数】公開・登録公報2017-036

【出願番号】特願2017-506360(P2017-506360)

【国際特許分類】

A 6 1 M 25/09 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 25/09 5 1 6

A 6 1 M 25/09 5 1 4

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月27日(2018.3.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

図 1 A は本発明の一実施形態を示す図であり、(明示されないが当業者に周知な)操作者による操作が可能な近位端まで近位に伸びるコア 1 0 2 を備えるガイドワイヤ 1 0 0 の切断図を示す。コア 1 0 2 は、さらに遠位端 1 0 4 を備える。変形可能な先端 1 0 6 は、遠位端 1 0 9 を備える。遠位端は、その上に設置され、X 線不透過性でもあり得る遠位先端 1 1 0 を備える。変形可能な先端 1 0 6 は、平たい形状記憶材料の支持コイル 1 1 2 をさらに備える。支持コイル 1 1 2 は近位端 1 1 4 と遠位端 1 1 6 とを備える。近位端 1 1 4 は取付点 1 1 5 でコアの遠位端 1 0 4 に取り付けられて配置される。平たい材料の支持コイル 1 1 2 とコア 1 0 2 の少なくとも一部は、ばねコイル 1 1 8 で覆われており、その少なくとも一部が X 線不透過性であり得る。いくつかの実施形態において、コア 1 0 2 は取付点 1 1 5 において支持コイル 1 1 2 の内径より小さな外径を備えてもよい。あるいは、コア 1 0 2 は取付点 1 1 5 において支持コイル 1 1 2 の内径より大きな外径を備えてもよい。さらにまた、コア 1 0 2 は取付点 1 1 5 において支持コイル 1 1 2 の外径より大きな外径を備えてもよい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 7】

ここで次に図 2 A および図 2 B を参照すると、本発明のガイドワイヤ 2 0 0 の他の実施形態が図示されている。この実施形態は、ステンレス鋼、ポリマー、もしくは形状記憶材料、もしくはこれらの組み合わせで構成されている緩い編組 2 0 2 が、支持コイルの遠位端 1 1 6 から支持コイルの近位端 1 1 4 まで、変形可能な先端 1 0 6 に沿って設けられること以外は、図 1 A および図 1 B と同一である。緩い編組 2 0 2 および支持コイル 1 1 2 を取り囲むばねコイル 1 1 8 とともに、緩い編組 2 0 2 を支持コイル 1 1 2 の外部表面 1 2 0 の回りに適用してもよい。また、緩い編組 2 0 2 は支持コイル 1 1 2 のワイヤの巻きの間に配置されてもよい。さらにまた、緩い編組 2 0 2 は支持コイル 1 1 2 の代わりにガイドワイヤ 2 0 0 の中に採用され、支持コイル 1 1 2 の実施形態と同じ機能を果たしても

よい。